

研究室紹介

教員紹介

日向 太郎

東京大学文学部教授。
ラテン語・ラテン文学が専門。ラテン語韻文・ラテン語散文講読を担当。

松浦 高志

東京大学文学部助教。
ギリシア語・ギリシア文学が専門。
ギリシア語散文講読を担当。

佐野 好則

国際基督教大学教授。
ギリシア語韻文の特殊講義を担当。

野津 寛

信州大学教授。
ギリシア語初級・韻文講読の演習を担当。

吉田俊一郎

慶應義塾大学講師。
ラテン語初級・中級を担当。

スタッフ

教務補佐 友井太郎
事務補佐 小川友希子

所属学生数

学部5名 修士10名 博士8名

開室時間

月曜日 10時～17時
火曜日 10時～17時
木曜日 13時～17時
金曜日 10時～13時



研究室活動

クラシカルセミナー

西洋古典学に関する研究発表会を行っています。
時には海外から先生をお呼びすることもあります。
月に一度を目安に開催されています。

研究室旅行

学生間の親睦を深めるために、研究室旅行が催されます。
近年は静岡や福島に足を運んでいます。

国際交流

TOPS (Tokyo Oxford Programme of Summer)

葛西教授が中心となり2012年度から行っている、
英国・Oxford大学でのサマープログラムです。
東京大学の体験活動プログラム及び
SGU事業(スーパー・グローバル・ユニバーシティ)の一環であり、
本学唯一のOxford大学との交流事業です。

夏季休業期間の4週間、Oxford大学のコレッジに宿泊し、
授業・講演・見学旅行・プレゼンテーションなどを行います。
例年、当研究室から多くの学生が参加します。
他学部・他専修課程からの参加者も大勢いますし、
毎年1・2年生の参加者もいます。



研究室教授 日向太郎より

西洋古典学とは、主に古代ギリシア語やラテン語を、そしてこれらの言語で記された書物を研究する学問です。最も古い作品は、紀元前八世紀に成立した古代ギリシア語の叙事詩『イリアス』と『オデュッセイア』です。仮に、西ローマ帝国の滅亡をもって古代は終焉したと考えると、じつは千二百年にも及ぶ時代の著作が我々の研究対象となります。

古代ギリシア語やラテン語は死語です。学生時代に私は、日本人がヨーロッパの死語を学ぶことに何の意味があるのかとよく尋ねられました。しかし、上手に答えられたためがありませんでした。今あらためて同じ質問を受けても、やはりうまく答えられそうにはありません。

それでも、三十年以上学んできて言えることは、古典語は(むつかしいけれど)優しく、豊かで、美しいということです。この魅力的な世界は、私にとって何物にも代え難いものです。古典を読み研究することが、一番私の心に適っています。他のことをしていてもこれ程に心が安らぐことはありません。

こんな個人的な感想は、古典を学ぶ意味を問う人に対して、何の説得力も持たないでしょう。しかし、聞き直って問い返すのならば、何かを学ぶ意味を問うことに意味があるのでしょうか？

古典を学ぶことには、実利はないかも知れないけれど、喜びがあります。人々の情熱をかきたてるものがあります。社会に出てから、大学で学んで本当によかったと思うときが来ます。それはたぶん、私の妄想ではないでしょう。中世、ルネサンス、近代と人々は古典語の書物を求め続け、記された言葉の意味を問い続けてきました。たゆまぬそのような営みこそが、喜びや情熱の存在を証明しています。

そして、古典への憧れは現在も根強く残っています。ヨーロッパ各地の図書館が保有する少なからぬ写本が、デジタル化され(直接手に取ってではないにせよ)細部まで確認できるようになったことは、私の学生時代には考えられないことでした。また、初期の印刷本、さらには日本では閲覧不可能だった研究書などが、オンラインで読めるようになりました。西洋古典学くらい情報科学技術の恩恵を受けている学問はないと思われるほどです。こうした恩恵の陰には、古典を愛し、多くの人々に広めようとする研究者たちの献身的な協力があります。さあ、彼らの誘いに応えようではありませんか。

西洋古典学研究室では、皆さんの学びを推進するためのプログラムを用意しています。学部生向けとしては、東京大学スーパーグローバルプログラム兼体験活動プログラムである「TOPS」があります。また、文科省による「トビタテ留学JAPAN日本代表プログラム」にも、本研究室からの参加実績があります(イリノイ大学、エジンバラ大学)。大学院生は、オックスフォード大学に半年間留学できるようになっています。現在ケンブリッジ大学大学院コースで学んでいる本研究室出身の院生もいます。さらに、イタリアのフリウーリ州でウディネ大学、トリエステ大学、オハイオ州立大学と共同でラテン語写本を読解するための夏期講座を企画しています。

研究室一同、皆さんと一緒に学ぶことを楽しみにしています。



Q&A

西洋古典学とは何をするのですか？

ざっくりと言ってしまうと、古代ギリシア・ローマのテキストを古典語で読んでいきます。哲学・歴史をはじめ、ギリシア悲劇や恋愛詩など幅広いジャンルの文献を扱います。

古典語が未修でも大丈夫ですか？

本郷でも初級文法の授業が開講されていますし、未修者には補習も行われます。古典語未修で進学し無事に卒業した先輩もいますから、大丈夫です。

卒業生の進路はどうですか？

もちろん大学院に進学する人もいますが、最近では公務員や一般企業への就職者が増えています。直近では国家公務員、メガバンク、大手通信社などに卒業生が就職しました。

教職免許は取れますか？

中学および高校の教職免許が取得可能です。



西洋古典学研究室

文学部3号館7階

03-5841-3855

l_glc@l.u-tokyo.ac.jp

The University of
Tokyo
Department of
Classics